

子育て環境の充実に関する特別委員会 管内調査
令和2年11月10日（火）～11日（水）

1 京都府立南陽高等学校附属中学校（木津川市）

【調査事項】

I C T教育について

【調査目的】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために行った休校による影響や、I C T教育の推進に向けた全国的な機運の上昇などを踏まえ、同校が実践するI C Tを用いた先進的な教育方法について調査する。

【調査内容】

京都府立南陽高等学校附属中学校は、平成30年に開設され、本年開校3年目となる中高一貫校である。GLOBAL、SCIENCE、PHILOSOPHYを教育の三つの柱とし、タブレット端末などを使用して自ら課題を発見し、グループワークで仲間と協働して解決する総合的な学習の時間「ダ・ヴィンチ」を設けている。

新型コロナウイルスの影響で休校になった際には、動画配信システムを使用して講義や各教科の問題の解説を生徒に配信する等、I C Tを活用して対応した。また、動画配信システムを使用するに当たり、全ての家庭に対し、ネットワーク環境の有無についてアンケート調査を実施し、各家庭の通信環境を圧迫しないよう、動画の配信は最小限にするなど、家庭におけるネット環境の格差による弊害が生じないように工夫を凝らした。

本年度中に一人1台タブレット端末を配置し、今後より活発に授業で使用する予定である。機器の管理方法や各家庭におけるネット環境の格差是正、教員のさらなるI C T機器活用能力の向上などの課題はあるが、I C Tの活用による生徒の情報モラルや情報収集・選別能力の向上、自分のペースに合わせた学習の実施などが期待できるとのことであった。

【主な質問事項】

- ・教材の準備に係る教員の負担について
- ・I C Tを活用した授業に対する生徒の反応について
- ・情報リテラシー教育について
- ・生徒の感性を育む教育について など



調査事項を聴取



授業見学

2 子育て支援センターにっこりあ（宮津市）

【調査事項】

宮津市における子育て支援について

【調査目的】

子育て家庭の支援と親子の居場所づくりのため、多くの市民が利用する大型商業施設内に子育て支援センターを開設する宮津市の取組を調査し、主に未就学児とその家族を対象とした子育て支援について見解を深める。

【調査内容】

子育て支援センターにっこりあは、宮津市子ども・子育て支援事業計画の重点プロジェクトの一つとして、図書館や障害者生活支援センター、保健センターや教育委員会が入った複合施設である宮津市福祉・教育総合プラザ内に平成29年に開設された。

同センターは、もともと市内に2か所あった子育て支援センターが統合されたものであり、子どもが自由に遊ぶことができる場を提供するだけでなく、同フロアに保健センター等の行政機能も備えていることから、保護者等へ子育て支援に関する情報提供や相談、助言などを行う利用者支援事業もワンストップで実施している。

開館日は木曜日と年末年始を除く毎日であり、通常は未就学児童とその保護者、日曜日のみ小学4年生まで利用が可能である。食料品売場やレストランと同じ商業施設内にあるという高い利便性から、開設された平成29年11月27日から令和2年3月末までの利用者は累計93,316名にのぼり、移転前の2か所の子育て支援センターの利用者数の約6.5倍になる。休日の利用者数は平日の約2倍であり、また、宮津市外からの利用者が75.4%を占めるなど、近隣の市町村からの利用者や観光客の利用も目立つ。

宮津市は今後、子育て世代のネットワーク形成を目指して、人材育成などのソフト事業についても推進していくとのことであった。

【主な質問事項】

- ・宮津市外からの利用状況について
- ・土日開館をすることによるメリットについて
- ・同センターの運営方法について
- ・宮津市におけるNPO法人による子育て支援事例について など



調査事項を聴取



施設を視察

3 京丹後市立網野南小学校放課後児童クラブ（京丹後市）

【調査事項】

京丹後市における放課後の子どもの居場所づくりについて

【調査目的】

共働き家庭の増加等により需要が高まっている小学生の放課後の居場所づくりの参考とするため、地域の人材と連携し、特色ある放課後児童クラブを運営する同市の取組について調査する。

【調査内容】

京丹後市は、保護者の就労や疾病、その他の理由により、放課後等の昼間、家庭において保育が受けられないと認められる児童の居場所として、市内に10か所の放課後児童クラブを開設している。人口減少に伴い小学校の統廃合が行われたことにより、放課後児童クラブの運営可能な空き教室が少ない小学校が多いため、市内10か所の放課後児童クラブのうち6か所は小学校の敷地外に設置されており、子どもたちは授業終了後、送迎車によって放課後児童クラブに移動している。

網野南小学校放課後児童クラブでは、週に一回、実行委員による放課後子ども教室が開催されている。放課後子ども教室は、放課後児童クラブの利用者以外も利用することができ、スタッフの見守りのもと、校庭や教室などを開放し、スポーツや季節に応じた工作などの文化活動を行っている。

地域の住民がスタッフであり、利用を希望する児童は予め登録をしておくことによりいつでも利用が可能であるが、安全のため、帰りは保護者が児童を迎えにくることとなっている。

新型コロナウイルスの影響により、今年度は学年ごとに教室を分けて放課後子ども教室を運営するなどの対応をとっている。また、今まではスタッフが子どもの遊びに入っていたが、感染拡大防止の観点からスタッフは見守るのみになったとのことである。

放課後子ども教室の運営は、スタッフの体力的に大変な面もあるが、子ども達のパワーにスタッフが元気づけられているとのことであった。

【主な質問事項】

- ・放課後子ども教室のスタッフについて
- ・放課後児童クラブの人員確保について
- ・放課後児童クラブの運営主体について など



調査事項を聴取



施設を視察